

ノニアラサレハ酒類ノ販賣ヲ爲スヲ得スト
トスルモノ(「ポートランド」「アストリア」
「メリスビル」各市條例「アラスカ」領法等)

二、公ノ工事ニ雇傭スル人夫

市民、市民タル意思表示ヲ爲シタルモノ
又ハ市民トナル資格ヲ有スル者ニアラサ
レハ州郡市ノ工事ニ使用スルヲ得ストス
ルモノ(「アイダホ」「ワイオミング」各州法等)

三、州有地拂下及「ホーム・ステッド」地

市民又ハ市民タル意思表示ヲ爲シタル者
ニアラサレハ州有地ノ拂下又ハ「ホーム・
ステッド」地ニ入込ムヲ得ストスルモノ
(「オレゴン」「アイダホ」華州各州法等)

四、自然産牡蠣ノ採集

市民トナル資格ヲ有スルモノニアラサレ
ハ販賣ノ爲自然産牡蠣ノ採集又ハ之カ養
殖場ノ設立及投資ヲ爲スヲ得ストスルモ
ノ(「オレゴン」州法)

五、狩獵漁獲免許料

二三年二月成立)ニヨ
レハ自治團體ハ外國人
ニ對シ娛樂遊戲飲料店
「ホテル」及下宿業等ニ
對スル「ライセンズ」
下付ヲ禁セラル本法ハ
表面上外國人一般ニ適
用セラレルモ實際上不
便ヲ蒙レルハ日本人等
東洋人ナリ

第二節 差別待遇問題ニ關スル日米交渉

第一、歸化權及土地法ニ關スル大審院判決

一、歸化權及土地法ニ關スル試訴提起

一九一三年加州土地法制定以來帝國政府ニ於テハ同法ノ適法ナリヤ否ヤノ問題殊ニ同法適用ノ軌

其他狩獵又ハ漁獲ノ免許ニ市民タル意思
表示ヲ爲ササル外國人ニハ特ニ多額ノ免
許料ヲ課スルモノ(「オレゴン」「モンタ
ナ」加州各州法等)

六、大學授業料
加州大學ニ於テ歸化意思表示ヲ爲ササル
外國人學生ニ對シ授業料ヲ徵收スルモノ
(加州法一九二三年六月成立)

七、日支人所有地借地表ノ調製
州官吏ヲシテ毎年州内ニ於ケル土地ヲ所
有借地スル日支人ノ表ヲ調製セシムルモ
ノ(「オレゴン」州法一九二三年二月成
立)

範トナレル日本人歸化無能力ノ推定ノ適法ナリヤ否ヤノ問題ニ付テハ之ヲ米國法廷ノ裁斷ニ待ツ
ノ必要アルヲ認メタルモ之カ試訴ニ對スル勝訴ノ見込ノ確實ナラサルコト其ノ他諸般ノ事情ヲ考
察シ姑ク試訴提起ヲ見合ハセタリ然ルニ一九一六年關係日本人中ヨリ歸化問題ニ關スル試訴ヲ提
起スルモノアリ其訴訟ノ進行遅々タルモノアリシカ其間ニ一九二〇年加州「イニシアテ、グ」土地
法制定セラレ踵テ一九二一年華州其他數州ニ於テ排日土地法ノ成立ヲ見ルニ至リ特ニ加華兩州日
本人ハ其受クル打撃ノ大ナルモノアリタル爲華州ニ於ケル關係日本人會ハ一九二一年六月同州法
ニ對スル試訴ヲ提起シ又加州ニ於ケル關係日本人會ハ同年十月加州法中收穫契約及借地權ニ關シ
各別ノ試訴ヲ起シ更ニ一九二二年二月株式所有ニ關シ試訴セリ其後歸化訴訟ノ審理進行シ一九二
二年十一月合衆國大審院判決ヲ下シ日本人ハ米國法上歸化能力無シト斷定シ次テ翌一九二三年十
一月土地法ニ關スル四箇ノ訴訟ニ對シ判決言渡アリ孰レモ日本人側ノ敗訴ニ歸セリ

二、歸化權ニ關スル試訴ノ内容

米國大審院ニ繫屬シタル歸化權ニ關スル訴訟事件ハ二アリ小澤歸化訴訟及山下、河野歸化訴訟即
チ之ナリ

(一) 小澤訴訟事件

小澤孝雄ハ一八九四年米國ニ渡來シ一九〇二年加州「アラメダ」郡裁判所ニ於テ第一歸化證ヲ獲
得シ其後布哇ニ移リ一九一四年布哇ニ於ケル合衆國地方裁判所ニ對シ第二歸化證下付ヲ申請シ
タルカ一九一六年二月却下セラレタルニ依リ桑港所在巡回控訴院ニ控訴セリ然ルニ同裁判所ニ於
テハ右控訴ニ對シ直接判決ヲ下サスシテ合衆國大審院ニ向ヒ事件ノ確認ヲ求メタリ此確認 (certi-
fication) ト稱スル手續ハ下級裁判所ヨリ法理上ノ疑點ヲ上級裁判所ニ移牒スル一種ノ司法上ノ手
續ニシテ上告ト異ルモ其結果ニ於テハ上告ノ場合ト同様ニシテ大審院ハ之カ審判ニ際シテハ原被
兩告ノ辯論ヲ徵スルモノニシテ本件ニ於テハ(イ)一九〇六年ノ新歸化法ハ合衆國改正法典第二一
六九條ノ規定ヲ改廢シタルモノナリヤ(ロ)新歸化法上日本出生日本人ハ米國市民トナリ得ヘキヤ
及(ハ)歸化法カ改正法典第二一六九條ヲ改廢セス從ツテ歸化ハ自由ナル白人及阿弗利加土人並ニ
其子孫ニ限ラルルモノトセル場合ニ於テ日本人ハ歸化ヲ爲シ得ヘキモノナリヤノ疑點三箇ヲ擧ゲ
タリ

右事件ハ大審院ニ繫屬中ナリシカ一九二二年十月三日及四日ニ審問アリテ辯論終結シ十一月十三
日判決アリタリ判決理由ノ要旨左ノ如シ

桑港巡回控訴院ヨリ決定ヲ求メラレタル法律上ノ疑問三點ハ要スルニ(イ)一九〇六年ノ新歸化法

ハ改正法典第二一六九條ヲ改廢セルモノナリヤ否ヤ(ロ) 若シ改廢セサルモノトセハ原告ハ同條規定ノ下ニ歸化能力ヲ有スルヤノ二點ニ歸ス

(イ) 一九〇六年ノ新歸化法ハ單ニ歸化ニ關スル手續上ノ事項ヲ規定セルモノニシテ同法制定當時ニ於ケル移民委員會ノ報告ニ依ルモ將又議會通過ノ際ニ於ケル諸般ノ狀勢ヨリ之ヲ察スルモ同法カ改正法典第二一六九條ヲ變更スルノ趣旨ニ出テタルモノニアラサルコト明瞭ナリ原告ハ同法カ人種ノ如何ニ拘ラヌ一切ノ外國人ニ歸化權ヲ付與シタルモノニシテ改正法典第二一六九條ノ制限ヲ受クヘキモノニアラスト主張スルモ之妥當ノ見解ト云フヲ得ス蓋シ改正法典第二一六九條ノ規定ハ建國ノ遠キ昔ヨリ合衆國政治組織ノ一部ヲ爲セルモノニシテ該規定ノ改廢カ歸化法制定當時何等論議セラレサリシヲ以テ之ヲ見ルモ斯ノ如キ歷史的根據アル規定カ單ニ手續上ノ事項ヲ定メタル歸化法ノ制定ニ依リ其效力ヲ喪失セリト認ムル能ハサルナリ

(ロ) 改正法典第二一六九條ノ「自由ナル白人及阿弗利加土人竝ニ其子孫」ノ眞意義ヲ探究スルニ「自由」ナル語ハ同條制定當時奴隸ト區別センカ爲使用セラレタルモノニシテ今日ニ於テハ實益ナキ文字ニ過キス「白人」ノ意義ニ付テハ人種學上竝ニ法律上諸説アリト雖モ本條ノ解釋上「白人」ナル文字ハ人種ノ區別ヲ明カニスル爲使用シタルモノト解スルヲ妥當ナリトス而シテ從來

ノ判決例ニ依ルモ將又立法乃至行政上ノ取扱ニ依ルモ白人トハ「コーカサス」人種ヲ指スモノナルコト明白ニシテ此ノ觀念ヲ覆スヘキ何等ノ理由ヲ發見スル能ハス尤モ如何ナル人種カ「コーカサス」人種ニ屬スルヤノ問題及各個ノ場合ニ於テ歸化出願人カ如何ナル人種ニ屬スルヤノ問題ニ付テハ多少議論ノ餘地アルハ勿論ニシテ疑義アル者ニ付テハ各個ノ場合ニ付テ歸化能力ノ有無ヲ判定セサルヘカラス然ルニ本件ノ場合ニ於テ原告ハ日本人ニシテ「コーカサス」人種ニ屬セサルコト明瞭ナルヲ以テ歸化能力ヲ否認セラルルハ當然ナリ

(二) 山下、河野訴訟事件

山下、河野兩人ハ共ニ一九〇六年即チ新歸化法實施以前ニ既ニ第一及第二歸化證ヲ獲得セルモノナルカ一九二一年中華州カ外國人又ハ外國法人ノ土地所有ヲ禁止スル法律ヲ制定シタル後歸化米國人タル故ヲ以テ土地所有會社設立認可ヲ同州官憲ニ申請シタルニ日本人ナリトノ理由ヲ以テ却下セラレタルニ依リ同州大審院ニ申請書受理強制命令下付ノ申請ヲ爲シタリ然ルニ大審院ニ於テモ同年五月右申請ヲ却下セリ右ハ何レモ日本人ハ歸化權ヲ有セストノ根據ニ依ルモノナルヲ以テ小澤訴訟ノ「バラレル・ケース」トシテ歸化權ノ有無ヲ米國最高裁判所ノ判決ニ依リ決定セントシ大審院ニ持出シタルモノナリ右事件ニ關シテモ十一月十三日判決アリタリ判決理由ノ要旨左ノ

如シ

本件ハ小澤事件論點ノ一タル「日本出生ノ日本人ハ改正法典第二一六九條ノ下ニ歸化能力ヲ有スルヤ否ヤ」ヲ明カニセントスルニアルカ小澤事件ニ對スル判決ノ理由ニ準據シ本件原告ハ歸化能力ヲ有セスト斷定セサルヘカラス從ツテ當初原告ニ歸化證ヲ附與セル裁判所ハ權限外ノ事項ヲ決定セルモノニシテ其決定ハ無効ナリトス

三、土地法ニ關スル試訴ノ内容

(一) 華州土地法ニ關スル試訴

一九二一年華州土地法制定實施後「シアトル」米國西北部聯絡日本人會ニ於テハ對策トシテ同法ニ對スル試訴ヲ提起スルコトニ決定シ同年六月在「タコマ」地方裁判所ニ訴訟(Terace v. Thompson)ヲ提起シタルカ七月却下ノ判決アリテ原告側ノ敗訴ニ歸シタルヲ以テ十二月合衆國大審院ニ上告セリ

地方裁判所ニ於ケル原告主張ノ論點ハ(イ)華州憲法ハ土地所有權ヲ禁止セルモ借地權ヲ禁止セス然ルニ州法ヲ以テ借地權ヲ禁止スルハ州ノ憲法違反ナリ(ロ)日米條約第一條國民待遇ノ規定中所謂一般ニ商業ニ附帶シ又ハ必要ナル一切ノ行爲ナルモノハ他人ノ土地ヲ借リテ農產物ヲ生産販

賣スル行爲ヲモ含ムモノト解セサルヘカラス故ニ土地法ハ條約違反ナリ(ハ)土地所有權ノ禁止ハ州權ノ範圍ニ屬スルモノトスルモ借地契約ハ動產(Personal Property)契約ナルカ故ニ合衆國憲法修正第十四條ノ規定ニ依リ平等ノ保護ヲ與ヘラルヘキモノナリ故ニ土地法ハ合衆國憲法違反ナリト云フニアルカ之ニ對シ裁判所ハ(イ)州憲法ノ規定ハ土地ノ所有ニ關スルモノナルモ其所有(ownership)ノ意義範圍ヲ局限セサルカ故ニ憲法ノ精神ニ基キ法律ヲ以テ更ニ詳細ナル補足規定ヲ設ケ借地權ヲ包含セシムルモ州憲法違反ト云フヲ得ス(ロ)日米條約ハ農業地ノ所有及賃貸借ニ關シ何等規定スル所ナキカ故ニ土地法ハ條約違反ニアラス(ハ)合衆國憲法修正第十四條ハ土地ニ關スル州權ヲ制限シタルモノニアラス故ニ土地法ハ違憲ニアラスト判決セリ

(二) 加州土地法ニ關スル試訴

一九二〇年十一月加州土地法實施後農業經營ニ從事セル本邦人ハ當面ノ應急策トシテ從前行ハレタル歩合耕作ニ多少ノ改竄ヲ加ヘ收穫契約ト稱スル一種ノ雇傭契約ノ形式ヲ案出シタルカ檢事總長「ウェップ」ハ土地法勵行ヲ標榜シ收穫契約ハ實質上借地契約ト選フ所ナク土地法ノ精神ニ違反ストナシ各地方ノ檢事ニ對シ斯ノ如キ形式ニ依ル耕作契約ヲ調査檢舉スヘキ旨命令セリ茲ニ於テ桑港在米日本人會ニ於テハ一九二一年九月收穫契約ニ關シ先ツ訴訟ヲ提起スルコトヲ決定シ其後

羅府南加中央日本人會ト協議ノ結果同年十月桑港ニ於テハ收穫契約羅府ニ於テハ借地契約ニ關シ夫々試訴ヲ提起セリ右兩事件ニ對シテハ同年十二月桑港地方裁判所ニ於テ收穫契約日本人側勝訴借地契約敗訴ノ判決アリタルカ其後敗訴者側ヨリ何レモ合衆國大審院ニ上告セリ越エテ一九二二年一月桑港在米日本人會南加中央日本人會間ノ協議ニ基キ邦人株式所有ニ關スル試訴ヲ同年二月桑港地方裁判所ニ提起シ五月敗訴ノ判決アリタルヲ以テ七月合衆國大審院ニ上告セリ右三件ノ要點次ノ如シ

(1) 收穫契約訴訟事件 (O'Brien v. Webb)

本件ハ「インジャンクシヨ」ノ形式ニ依リ訴訟ヲ爲シタルモノニシテ檢事カ收穫契約ヲ土地法違反ト認メ契約當事者ヲ檢舉スルコトニ對シ裁判所ノ禁止命令ヲ得ント欲スルニ在リ原告ハ土地法ハ日米條約及合衆國憲法竝ニ法典ニ違反スル所アリト主張シ尙假リニ土地法ヲ適法ノモノトスルモ收穫契約ハ土地法ノ下ニ於テモ適法ノ契約ナリト論シ之ニ對スル判決理由ハ土地法ハ適法ノモノニシテ條約憲法及法典ニ牴觸スルニアラサルモ收穫契約ハ當事者ノ一方カ勞務ニ對スル報酬トシテ收穫物ノ一部ヲ受クル契約即雇傭契約ニ過キスシテ土地法ノ規定ニ違反スルモノニアラサルカ故ニ土地法上有効ノ契約ナリトセリ

(2) 借地契約訴訟事件 (Porterfield v. Webb)

收穫契約事件ト同シク「インジャンクシヨ」ノ形式ニテ訴訟ヲ提起シ主トシテ合衆國憲法法典及日米條約違反ヲ主張セルカ之ニ對スル判決理由ハ土地法ハ憲法、條約及合衆國法典ニ牴觸スル所ナク適法ノ法律ナリトセリ

(3) 株式會社訴訟事件 (Frick v. Webb)

本件モ亦「インジャンクシヨ」ノ形式ニ依リ合衆國憲法及法典竝ニ日米條約違反ヲ主ナル論點トセルカ之ニ對スル判決理由ハ土地法ハ憲法竝ニ法典條約ニ違反セス適法ノモノナリトシ本件土地會社ノ株式取得ハ土地法ニ規定セル不動産上ノ權利取得ニ當該シ同法ハ歸化權ナキ外國人ニ對シ之ヲ禁止セルモノナリト斷定セリ

(三) 合衆國大審院ニ於ケル判決

合衆國大審院ニ於テハ原被兩告トノ協定ノ結果前顯(一)及(二)(三件)ノ四事件ヲ一括同時ニ審理スルコトニ決定シ一九二三年四月二十三(四兩日)ニ互リ試訴事件全部ニ對シ口頭辯論行ハレタルカ其後大審院ハ十一月十二日前顯四事件ノ中加州土地法借地禁止ニ關スル件及華州土地法ニ關スル件ノ二件ニ對シ判決ヲ下シ右兩州法ハ共ニ有效ニシテ合衆國憲法又ハ日米條約違反ニアラサル旨

斷定セリ右兩件判決理由中注意スヘキ點ハ

(1) 本件州法ハ憲法違反ニアラス蓋シ憲法修正第十四條ノ規定ハ公安維持ニ關スル州ノ權力ヲ妨クルモノニアラス農地ヲ所有占有使用スルモノノ性質及忠誠如何ハ州ノ公安ニ關スルモノニシテ州ハ條約ニ規定ナキ以上外國人ニ對シ土地所有等ヲ禁スル權能ヲ有ス尙歸化シ得ルモノヲ白人及黑人ニ限レル憲法ノ規定ハ州法カ歸化權ノ有無ニ依リテ土地ニ關スル權利享有ニ差別ヲ設クルニ付有力ナル基礎トナルヘシト爲シ

(2) 本件州法ハ日米條約違反ニアラス蓋シ同條約第一條ハ日本人ノ權利ヲ列記的ニ規定シ居ル處本件借地權ノ加キハ何等ノ規定ナキヲ以テ條約牴觸問題起リ得スト爲セルコトニアリ

十一月十九日合衆國大審院ハ更ニ殘レル收穫契約ニ關スル件及株式會社ニ關スル件ノ二件ニ對シ判決ヲ下シ收穫契約ハ單ナル勞務契約ニ非ス實質上借地ト異ナラサルカ故ニ歸化不能ノ外國人ニ依ル右契約ハ無効ナリ又土地ヲ所有スル會社ノ株ヲ所有スルコトハ即チ土地ノ所有トナルカ故ニ歸化不能ノ外國人ハ右株式ヲ所有スルヲ得サル旨斷定セリ之ニヨリ試訴ノ結果ハ全部我方ノ不利ニ終ルニ至レリ

四、土地法問題ニ關スル埴原大使ノ覺書

既ニ述ヘタル加ク一九二二年華盛頓會議終了後帝國政府ニ於テ日米問題ニ關シ米國政府ト交渉ヲ進ムルヲ避ケタルハ華盛頓會議以後革新シタル日米關係ト米國側ノ意嚮トニ顧ミ暫ク問題解決ノ好機ヲ待ツコトトシタルニ職由スルカ加シ然ルニ右ノ加ク土地法ニ關スル米國大審院判決アリ殊ニ日本人側ニ於テ必勝ヲ歸シタル收穫契約ノ違法性確立シ在留日本人農家ニ對スル精神上物質上ノ打撃重大ニシテ形勢急迫スルニ至リ帝國政府トシテハ默視スルコトヲ得サリシヲ以テ右ノ事情ニ拘ラス差別的な土地問題ニ關シ交渉ヲ再開スルノ緊要ナルヲ認メ十一月末在米埴原大使ニ訓令シ大要次ノ要旨ヲ米國政府ニ申入レシムルコトトセリ

(一) 加州土地法制定以來帝國政府ヨリ米國政府ニ對シ屢次表明セル差別的な土地法ニ對スル抗議ハ引繼キ帝國政府ニ於テ維持スルモノナリ

(二) 米國政府ニ對シ今回排日土地法ニ關スル試訴ニ對スル判決ノ結果關係諸州ニ於テ日本人ノ蒙ルヘキ苦痛ヲ除却シ又今後日本人ノ地位ヲ危殆ナラシムルカ如キ何等手段ヲ阻止スヘキ方策ニ付特別ノ考量ヲ拂ヒ將又他州ニ於テ同様ノ風潮ノ激成スルコトナキ様必要ノ阻止豫防手段ヲ講セムコトヲ求ムルハ帝國政府妥當ノ要請ナリ

(三) 仍テ米國政府ニ於テ太平洋沿岸諸州ノ日本人ノ實情ヲ精査シ之カ救濟方法ニ關シ卒直且迅速

ニ協議ヲ進ムルコトニ盡力セラレムコトヲ望マサルヲ得ス

十二月四日埴原大使ハ國務長官「ヒューズ」ニ面謁シ右訓令ノ趣旨ニヨリ適宜作成シタル覺書（附屬書第百號）ヲ手交シ之ニ對スル米國政府ノ回答ヲ求ムルト同時ニ同長官ニ於テ何等結論ニ到達スル以前ニ同大使ト非公使ニ腹藏ナキ意見交換ノ機會ヲ作ラムコトヲ要請シ同長官ハ之ヲ諾シタルモ其後米國政府ハ何分ノ回答ヲ爲サス仍テ在米埴原大使ハ其後翌一九二四年一月十五日當時懸案中ノ移民制限法案問題ニ關シ國務長官ト面謁ノ際十二月四日ノ會見ニ言及シ回答ヲ促シタルニ長官ハ其後本問題ニ關シ親シク私的懇談ヲ遂ケムト欲シタルモ差當リ實行可能ノ名案ナク新條約ヲ締結スルモ或ハ一案タルヘキモ之ニハ有力ナル反對アリ未タ私見交換ノ基礎トスヘキ試案ヲ考ヘ付カサル爲遷延シ居レリト辯疏シタルカ其後日米兩國當局ハ移民制限法案問題ニ忙殺セラレタル爲本件交渉ニハ何等進捗ヲ見ス未決ノ儘トナレリ

第二、日系米國市民國籍剝奪問題

一、米國出生外國人兒童ノ國籍ニ關スル憲法修正案ノ先驅
米國ニ出生シタル外國人ヨリ市民權ヲ剝奪セムトスル憲法修正案ハ既ニ一九二〇年一月加州選出上院議員「フィラン」ニヨリ提出セラレタリ同案ハ「米國ニ出生シタル者ニシテ其父母カ白人

阿弗利加人亞米利加印度人又ハ其子孫タル者並ニ米國ニ歸化シタル者ハ米國及其居住スル州ノ市民タリ」トスル趣旨ノ憲法修正決議案ヲ米國議會ニ提出シ又一九二一年四月加州選出上院議員「ジョーンス」ハ「米國ニ出生シタル外國人ノ子ハ其父母カ歸化權アル外國人ニアラサレハ米國歸化權ナシ」トスル趣旨ノ憲法修正決議案ヲ米國議會ニ提出シタルコトアルモ共ニ關係委員會ニ附託セラレタル儘議會閉會セリ

二、一九二三年「ジョーンス」提出ノ憲法修正案

其後前顯ノ如ク一九二二年十一月合衆國大審院ハ現行米國歸化法上本邦人ハ米國歸化權ナシト判決セリト雖モ米國ニ於テ出生シタル日本人兒童ノ米國市民權ヲ有スルコトハ依然トシテ米國憲法ノ保障スル所ニシテ該判決ニヨリ影響セラルル所ナシ然ルニ太平洋沿岸諸州ニ於ケル排日論者ハ州法ノ制定實施ニヨリ本邦人ノ農業ヲ破壞シ更ニ議會ノ立法ニヨリ本邦人ノ入國ヲ排斥シ究極ノ手段トシテ米國憲法ノ改正ニ依リ米國出生日本兒童ヨリ市民權ヲ剝奪シ以テ本邦人ヲ永久ニ米國ヨリ排斥スルノ必要ナルコトヲ飽迄主張シテ止マス一九二三年十二月第六十八回米國議會開會ノ初メ上院議員「ジョーンス」（共和黨）ハ再ヒ米國出生外國人兒童ノ國籍ニ關スル憲法修正決議案ヲ提出シ上院法制委員會ニ附託セラレタリ

「ジョーンス」案ノ要旨次ノ如シ

米國內ニ於テ外國人タル親ヨリ今後生レタル子ハ其兩親カ共ニ歸化權ヲ有スルニアラサレハ米國國籍若クハ歸化權ヲ有セス又從來米國內ニ於テ生レタル者ハ其兩親カ共ニ米國國籍又ハ歸化權ヲ有シタルニアラサレハ本條項採用後米國國籍若クハ歸化權ヲ有セス（附屬書第百一號）

又同年十二月下院議員「レーカー」（加州選出民主黨）及下院議員「アルバート・ジョンソン」（華州選出共和黨）ハ前記「ジョーンス」案ト類似ノ憲法修正決議案ヲ提出シ下院法制委員會ニ附託セラレタリ

三、憲法修正案ニ對スル帝國政府ノ態度

右憲法修正決議案ノ目的タル内容ハ元米國ニ對スル忠誠ノ問題ニシテ帝國政府ヨリ抗議ヲ提出スルモ米國政府ハ其國內問題ナルコトヲ理由トシテ之ヲ拒絕スルノ虞ナシトセスト雖モ其影響スル所甚タ重大廣汎ニシテ殊ニ其直接目的ノ日本人排斥ニアルコト明ガナルニ照シ事態ヲ自然ノ推移ニ放任スルコトハ到底帝國政府ノ難シトスル所ナルノミナラス前記決議案提出ノ日本國民ニ與ヘタル反動ハ強烈ニシテ飽迄親米穩健論ヲ主張シ來リタル人士迄モ其憤激スル所甚シク其結果極メテ憂慮スヘキモアルヲ以テ日本政府ハ一九二四年一月一日在米埴原大使ニ訓電シ同決議案ノ理

論上且政策上妥當ナラサルコトヲ指摘シ同案通過阻止方ニ付米國當局ト口頭ヲ以テ篤ト懇話ヲ遂ケシムルコトトシ埴原大使ヨリ國務長官ニ爲スヘキ交渉ノ論據等ニ付テハ同大使ノ裁量ニ一任シタルモ次ノ諸點ヲ特ニ考量スヘキ旨訓電セリ

（一）從來歸化權ニ關スル問題ハ國內問題ナルニ顧ミ努メテ論議ヲ避ケタルモ近來米國歸化法カ各種排日立法竝ニ排日論ニ基礎若ハ口實ヲ與フルニ至リ殊ニ本件憲法修正決議案ノ如キハ明カニ日本人ノ權利制限ヲ目的トスルモノナルカ故ニ本問題ニ關シ米國政府ノ考慮ヲ求メントスルハ實ニ止ムヲ得サルナリ

（二）凡ソ何人カ一國ノ市民トシテ最モ優秀ニシテ忠誠ノ精神ニ富ムヤハ各個人ニ付個々ニ決定セラルヘキ問題ニシテ人種若クハ皮膚ノ色ニヨリ概括的ニ決定セラルヘキモノニアラス然ルニ米國歸化法ハ獨斷的ニ人種ニヨリテ歸化能力ノ有無ヲ定メ日本人ヲ歸化無能力者ノ範疇ニ包含セシムルハ日本國民ノ正當ナル自負心ヲ損傷スルモノニシテ其最モ不快トスル所ナリ

（三）殊ニ本件憲法修正案ノ如ク兩親ノ歸化能力ニヨリテ其子ノ市民權ヲ決定セントスルハ論理ノ飛躍ヲ爲シタルモノナリトノ非難ヲ免レス蓋シ米國ニ於テ出生シタル子カ親ノ有スル思想ト感情トヲ承繼シ此思想ト感情トカ米國ノ文化ト精神トニ相背反スル場合ニ限り本決議案ノ論理ハ

成立スト雖モ實際ニ於テ米國ニ於テ出生シタル子ハ多クハ米國文化ノ雰圍氣内ニ成長シ米國ヲ自己ノ郷土ト爲シ米國ノ思想ト精神トヲ體得スルモノナリ

(四) 更ニ實際上ヨリ考察スルトキハ太平洋沿岸諸州ニ於ケル日本人ハ單ニ歸化能力ヲ有セサル理由ニヨリテ各種ノ權利ヲ奪ハレ其生業ヲ失ヒ今ヤ殆ト其前途ノ處置ニ窮シツツアリ然ルニ本件決議案ハ更ニ進ンテ彼等ノ子孫ヨリ其當然享有スヘキ各種ノ權利ヲ剝奪シ將來ニ於テ人類ニ必須ナル向上的精神ト希望トヲ失ハシメ米國內ニ於ケル不幸ナル少數民族トシテ終始セシメントスルモノナリ

在米埴原大使ハ一月十五日國務長官「ヒューズ」ト面謁ノ際本問題ニ言及シ注意ヲ喚起シタルニ同長官ハ本件憲法修正案ノ通過容易ナラサルヘシトノ意ヲ洩シタルカ其後本案ハ何等進捗ヲ見スシテ第六十八議會閉會トナレリ

第十五章 一九二四年米國移民法制定ト紳士協約ノ廢棄

第一節 米國ニ於ケル移民制限ニ關スル二思潮

第一、一九二一年米國比例制限法ノ制定

一、「アルバート・ジョンソン」提出ノ移民制限法案

戰後歐洲ノ疲弊ニ伴ヒ東歐南歐諸國ヨリ米國ニ渡來スル移民ノ數激增スルト共ニ米國ニ於ケル經濟思想上竝ニ政治上論議ノ目的トナリ茲ニ歐洲移民問題ハ一般ノ注目ヲ惹クニ至レリ殊ニ戰後擡頭シ來レル「アメリカニズム」ノ思潮ハ米國ニ於ケル國民統一ノ完成ノ急務ナルコトヲ強調シ歐洲移民制限運動ニ對シ有力ナル根據ヲ與ヘタリ而シテ一九二一年比例制限法ハ此ノ移民制限思潮ノ表現トシテ採用セラレタル一時的應急措置ニ外ナラス

曩ニ一九一九年第六十五議會ニ於テ外國移民入國ニ對シ嚴重ナル一般の制限ヲ加ヘムトスル「バーネット」法案提出セラレタル以來一九二〇年第六十六回米國議會ニ於テモ數箇ノ同種法案ノ提出ヲ見タリ就中同年十二月六日華州選出下院議員「アルバート・ジョンソン」ハ官吏其他ノ特定ノ